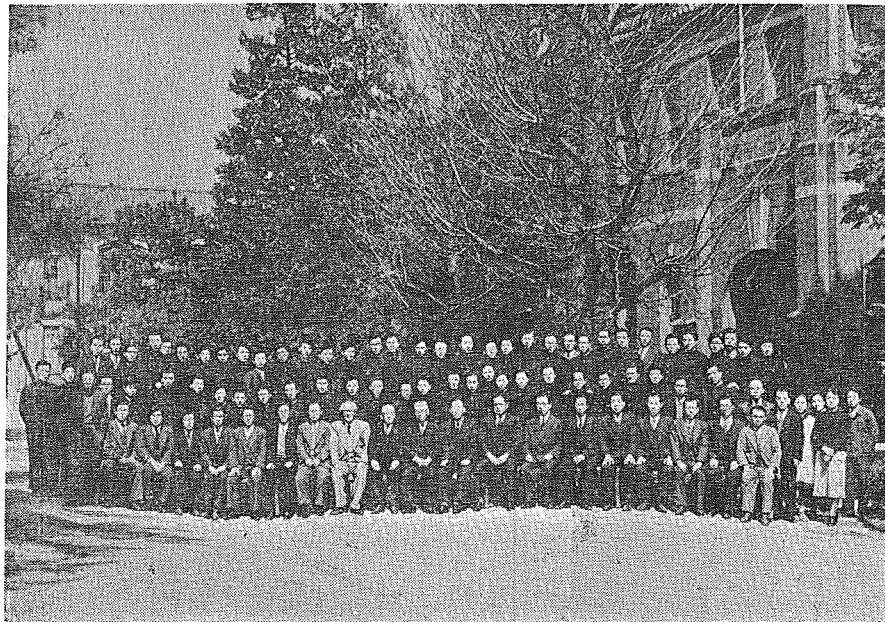


洛友会々報

京都市左京區吉田
京都大学工学部
電気科教室内
洛友会

前号には明治三十七年代の教室全員の写真を御覽入れたが、今回は、昭和三十年学部卒業生と教室各位との面影を御覽に入れる。全く今昔の感に堪えぬと言う処。場所は教室の玄関前。左手に他の教室がみえてくる。そこは、ずっと以前は、松林に笹の茂つた処。後に馬術部の馬場が出来た。そこへ建築されると言うので、馬場は、農学部構内に引越して仕舞つた。電気教室の横を流れていた小川は暗渠になつて仕舞つた。



支部總會と級友会

各地の支部總會が年々、盛んになつて来たのは嬉しい事である。又、それにも比して、クラス会が活潑に催されているのは、何より喜ばしい現象である。

クラス会は支部の細胞であつて、これが、健全でなくては、又、堅実でなくては、支部が健在であり得ないと思う。

クラス会は、学窓に机を並べ、白紙の状態からの交友であつたもの集んであつて、これより親しいものはない。然も一旦学窓を出れば、天職とする職業が、同種の範圍である。世に出ても、同じ電気という一本の横糸につながつてゐる。この意味において、世の中に、より親しい、気の置けない集りはない。

クラス会は、その集る人数に、こだわつてはならぬ。例え、三人でも立派なクラス会である。そも、同期卒業生の数が僅であり、然も、それ等が全国に、散らばつてゐるのではないか。

とかくクラス会が、他のクラス会の振りを見て、これに倣はんとする人情がある。たとえ、他のクラス会がどんな催しをしようと、自分達は自分達の分に應じて行ふべきもの。丁度、個人の経済生活に似たものである。

一回の派手な会合より、地味な数回の会合が意義深い。
若いクラスは、菓子を食べつてもよ
いから、クラス会を屢々、開会される事を祈る。

東京支部見学会記

東京支部では会員相互の親睦を興るためにゴールデン・ウィークの五月三日恒例の見学会を挙行しました。

た。電々公社正木先輩の御好意により、箱根二子山のマイクローエーブ設備を見学し、併せてハイキングを計画し当日の出席予定者は九一名でした。

ゴールデンウィークの天候は東京地区では不幸にも降りみ降らずみのはつきりしない空模様で当日の天気予報も午後から雨とのこと

で幹事としてはハラ／＼していましたが、御家族も入れて七四名の参加をみました。新宿二幸前に集合し遊覽バス二台で出発しましたがガイドの美声に聞きほれながら鶴見、横浜、戸塚で会員約十名を乗せ殆んど満員となりました。

途中江ノ島で小憩しましたがその頃から天候が崩れ初めポツ／＼と雨が降り、箱根に着いた頃は可成り雨となつて折角の眺望が台無しとなり誠に残念でした。二子山のマイクローエーブは見学に約一時間の登山をしなければならぬので中止して一路芦ノ湖へ直行しました。

芦ノ湖でも可成の雨のために湖畔荘で一時間程休憩、遊覽バスの疲をいやしました。

天候に恵まれれば新緑の候で東京の俗塵を流すには好適の景勝地でもあり、また芦ノ湖でも舟遊びができて会員の方に充分御満足頂けたと思ひ残念至極です。

東京へは七時半に到着致しまして新宿で散会致しました。(老田)

林重憲先生歡送会

林先生が明日羽田を発つて渡米されるという前夜、東京支部では急に連絡をとり、日比谷一松にて歡送会が催されました。

林先生歡送會
昭和三十年五月九日
洛友会東京支部主催
比谷一松にて

関西支部繪会

五月七日。大阪の電気クラブにて開催。先づ、映画「原子力の平和利用」を見る。約一時間十分。原子力について色々知る事が出来た。次に和田昌博氏の司会。一本松珠磯氏議長となり總會。昭和二十九年度事業並に会計報告役員改選
新支部長挨拶
鳥養会長挨拶
本部の近況(山村幹事)
附り。役員改選は詮衡委員に依り支部長、石沢四郎氏、副支部長(二

(名) 芦原義重氏、今田英作氏、かくて総会は終り、引き続いて、懇親会に移った。

出席者六十九名にて、前回よりは少なかった。色々の会合のある月の勢であらう。洋食が胃袋を慰めるのと、そろ／＼口の方が活動してテーブルスピーチとなる。その面々は、加藤信義。田中卓次。石堂雄雄。筑木二郎。森 薫。和田昌博。森 元行の諸氏であつた。

国鉄関係は十一人の内六人出席している。と筑木さんの熱心な協力振り。森 薫さんが国鉄だけが競争相手ではなく、今後は飛行機や自動車が交通機関としては問題だと阪急電鉄の重役意識がのぞき出る。和田さんが五十人の卒業生があるのに、卒業前に就

十四日会



職出来たのは一人だけで、自分はブー／＼組の一人だつたと、今日の就職難より厳しかつた話などで時は経過した。

余興として、出席会員の奥さんの平均年令の当てごっこ。奥さんのなものは彼女等々必ず記入すること。で六十九名が投票した。結果。総年令二千五百四十五才。平均三十六才九となつた。これに近いものから

【一等賞】西山節男さん。昨年卒業。独身。奥さんの年令十九才と書いてある。一体誰の年だろう

【二等賞】林堅太郎さん。但し自身の奥さんの年令は五十五才。

【三等】松村長延(昭二四)。【四等】林正一(大一一)。【五等】神先藤五郎(昭二)。【六等】森

昭一五同期会

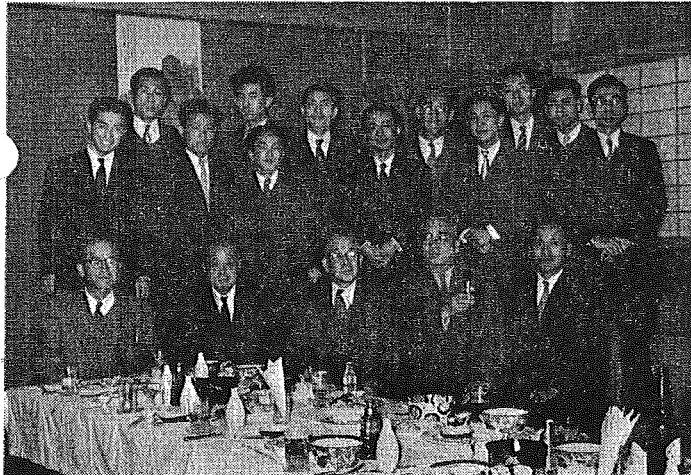


薫(昭三)の諸氏。それから、見当はずれの人にラツキー賞。平均二十七才一と最低の稲田豪吉氏(昭一二)と、四十四才と上の方で外れた齋藤良介氏(昭二八)以上八氏に一本松さんから、拍手の内に賞品が渡された。そして賑な内に閉会となつた。目出度し。

第二回 中国支部総会

洛友会中国支部の第二回総会が四月九日、花見客に賑わう敵島を対岸に見渡す中電宮島荘で開催された。この日、本部よりは阿部先生、山村幹事を迎え、遠く鳥取、岡山、山

北九州同窓会



員二十七名、久方ぶりの懐旧談に花を咲かせ、又阿部先生、鈴木先輩を始め出席者のかくし芸が披露されるなど、老いも若きも学生時代の姿にかえつて楽しい一夜を送つた。(眞田安夫記)

第三回 九州支部総会

阿部先生等来九を機に、九州支部第三回総会を四月二十日に開催することにしました。処、総員三十名の申込みで過去三回のうち最大の総会になり、出席率三十%という感会になりました。

幹事はこの為会場の広さと会費をならみ合わせながら会場の選定に一

苦勞いたしました。結局博多湾に近い石堂川畔の新三浦に決めました。

丁度先生の来られた十九日の「かもめ」で七里先生もモーターコロンブス社の社用で九州電力に來られたので、幹事の山村さんと三人の御出席で九州の人達も好い機会に恵まれました。

二十日には九州電力で午前中、七里先生のパイプ鉄塔の講演、午後は阿部先生の「材料より見た電力界の諸問題」という講演をして戴き、久しぶりに懐しい講義振り(?)に接しました。

いつも業務の拘束を受けて出て來られない筈の若手組が却々多く老若相半ばする状況で、鹿児島から、大分から、熊本から遙々から、博多に出て來られて誠に幹事として喜んでおります。

阿部先生の学校の近況説明中、最近の卒業生の就職状況に關連して、非常に成績よく秀才が多いとお話があり、その後、三十人が宴の始まりから終る迄約二時間に亘つて各人ユーマアたつぷりの自己紹介があり特に小柳(大六)さんの、悠々六年間かかつて卒業した話や、学校が可愛がつてくれて四年間在学した話等後輩にとつて甚だ心強い話で夜更ける迄徹談することなく、阿部先生、山村幹事を二十時三十分の汽車で小倉へお送りした後も尚半数以上が残つて飲みつけ酒少くなるに及んでやつと腰を上げた次第でした。時に二十二時で、この種会合としてはレコード破りの長時間であつたことをお記して感会であつたことをお知らせします。

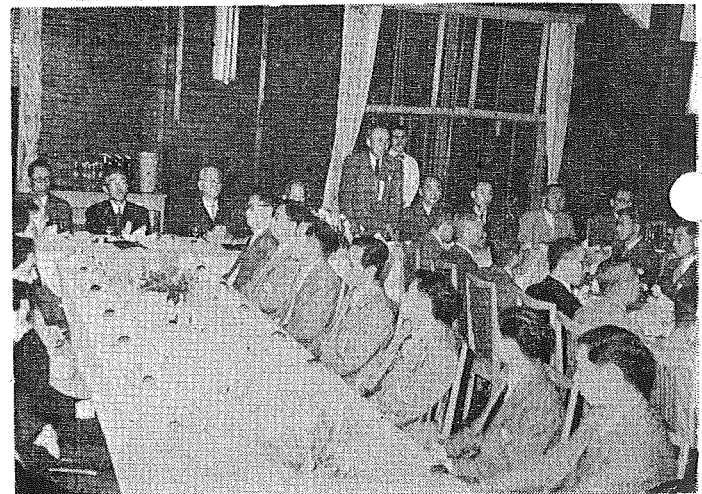
ちなみにこの写真は九電の



九州支部



中国支部



関西支部

宮田さんの腕に成る記念撮影で、腕も好いのですがそれ以上にカメラがよかつたことを附記致します。(安田振之助記)

在阪十四日 会春季大会

在阪十四日会は四月十四日再開第五十回を記念して、京都に春季会合を催した。大正十二年から昭和三年迄の同窓四十八人の中二十人が参加し、午後四時から、谷崎潤一郎の細雪(さだめゆき)で有名な平安神宮神苑の紅枝垂の散初めるのに、春を惜み、五時から岡崎つる家で小宴を開いた。教室の諸先生は工学部長更代の披露会に赴かれてお目にか

れなかつたが、鳥養、岡本両先生のお元氣な姿を拝見し色々とお話を伺っている間にいつの間にか自分の息子達の齡にも達しなかつた昔の氣分に戻つて行つた。今田幹事の挨拶に続いて、鳥養先生から、二月中旬に「中年の婦人」からこの会の予告を聞いていたと御挨拶があり、やがてその「中年の婦人」が現われて愈々賑やかとなつた。京の無形文化財井上流の舞を觀賞し、春宵千金を惜みつつ、浴友会の寮歌を唱つて散会した。

【写真】(向つて前列左より) 一本松。岐美。渋谷。藤田。今田。鳥養先生。岡本先生。幸前。青木。小宮。(後列) 安本。上林。瀬川。田中卓。神先。路次。森。藤田。太田。吉田。片岡。口羽。

昭一五同期会

卒業十五週年紀念の集りが、桜も満開の疏水端鹿ヶ谷寮で四月九日板倉、小南、北爪、黒田等幹事諸兄の骨折りで、岡本、加藤、松田、羽村(千)、前田、清野、大谷諸先生方をお迎えして盛大に開かれた。級友十七名、卒業以來始めて会う人々もあり、「何んだ、ヤツパリ交つてないね、芝生の上を思い出すよ」という声も聞かれた。その時の写真がカラフィルムでなかつた証拠をお目にかけます。(山村記)

【前列】向つて左より 前田、羽村、松田、岡本、加藤、大谷の諸先生、山村 【中列】北爪、森田、板倉、古賀と清野、林(千)の両先生

北九州同窓会の記

四月二十日の九州支部総会に出席された阿部先生、山村幹事が、翌二十一日安川電機に寄られたのを機会に同社クラブで北九州在住の同窓会を開きました。丁度関西支部の岐美先輩も来臨されましたので出席して頂きました。北九州の同窓生は最近の卒業生が多く、その三分の二は終戦後で、先輩後輩の年令の開きは親子にも相当し、会社では部長と平社員の関係にあります。先輩にはビールの王様(富永)や、漢詩の

【後列】 蛭子、吉田、松本、川西、黒田、日野、松井、角井、武田、十倉、小南、塚原

鎌居大藏君 (大11)

君は日立製作所に就職し工場長となられ、のち日東電気株式会社を創され活躍して居られたが、惜しくも四月八日に物故されました。

藤井藤之助君 (大11)

昭和二十九年十月に物故されました。

大家(福山)等風流人がおられますので、老若うちとけて非常にあいあいたる雰囲気なかで行われました。阿部先生からは大正の学生時代の思い出話から原子力時代の文化生活の一端まで面白い御話を拝聴し、会員一同学生時代を偲び、大先輩も青春時代を懐かしに花を咲かせ盛會裡に終始しました。尚富永先輩は五月から東京に転勤されますので、その送別会をもかねた同窓会でありました。去る一月の会合の際に秋田先輩が撮られた記念写真が、いまだに公表されませんが、後が先になりとりあえず今度撮りましたものを載せて頂きます。(岩崎英男記)

【前列】(向つて左より) 岐美(安川)、山村幹事、阿部先生、富永(安川)、福山(八幡製鉄) 【後列】 塩路(八幡製鉄)、清水(三菱化成)、藤田(八幡製鉄)、前波(安川)、赤石(安川)、上田(八幡製鉄)、秋田(八幡製鉄)、野田(共和電機)、田中(八幡製鉄)、望月(安川)、高津(安川)、岩崎(安川)

洛友会々費領収

三月十一日より五月十日までに 到着の分

昭和廿八年度

明四〇 黒田 豊
四五 岩岡 茂樹
四七 日野 宗雄
一五 浜田 誠一
一六 栗山 勝

一九 岡本 孝治
二〇 浜口 俊一
二一 木村 義郎
二二 井垣 喜生

二八 藤本 一郎
昭和三十九年度(第七回)

昭和廿九年度(第七回)

明四〇 山本 和七
四一 宝来勇四郎
四五 古田 正康
大二三 栗田 年雄

岩岡 茂樹
黒田 豊
黒田 豊

Handwritten notes and signatures in the top right corner, including names like 山本和七, 宝来勇四郎, etc.

昭和三十年度(第一回分)

四月一日より五月十日までに 到着の分

明三九 中島 卓爾
四〇 石津 龍輔
四一 野田清一郎
四二 石川若次郎

四三 野田清一郎
四四 佐藤 雅
大元 妹尾 吉次

二 野村 駒吉
大元 岩岡 茂樹
二 野村 駒吉

Main table listing members and their contributions for various years (昭和三十一年度, 昭和三十二年, etc.), organized by year and contribution amount.

Large handwritten notes and signatures at the bottom left, including names like 山本和七, 宝来勇四郎, etc.

(続)